

諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校
3月号 - ④
平成25年度第19号
(平成22年度指定)

無事アラスカから帰国しました！

大学講義受講、課題探究英語発表、極地観測・実験、博物館研修、ボーイング社研修体験

現地時間3月3日(月)にアラスカ州フェアバンクスに無事到着した旅行隊は、当日深夜、フェアバンクス郊外のスキーランドというオーロラ観測で著名な場所に出かけて観測を始めました。

残念ながら4日、5日のオーロラ観測は降雪と曇天で出来ませんでした。自然現象ですから仕方ありません。

アラスカ大学国際北極圏研究センター(IARC)の建物は、前所長赤祖父俊一名誉教授を記念して「AKASFU-BUILDING」と命名されています。

初日の4日(火)は、冒険家 Rozzel 氏による「北極圏の自然」、Dr.Alexeev 氏による「北極の気象」、そして Dr.Sparrow 氏による「実験観測と機器の校正(calibrate)」を受講しました。

二日目以降は、Dr.Mahhony 氏による北極圏の氷、Dr.Collins 氏による無人飛行機を利用した高層大気に関する講義と実習などの講義・実習を受講することが出来ました。課題研究(「Sprite」)を英語で発表したところ、Spriteの専門家が駆けつけてくださり、アドバイスを頂くことができました。



講義中の様子1/集中しています！/左下は赤祖父先生



講義中の様子2/質疑応答も活発にできました！

受講した生徒の感想は今後帰国後お伝えしますが、生徒より先に先生方から学校にメールを頂きました。

Dr.Collins 先生からは、「I think it was a good opportunity for me.」、Dr.Sparrow 先生からは、「You are very welcome. I enjoyed working with the students.」、Dr.Mahhony 先生方からは「You are most welcome. I was impressed by the attentiveness and politeness of the students and the quality of their questions. Best regards.」など、SSH コースの諸君の講義を受けた様子が伺える内容でした。

また、アラスカ大学国際極地観測センターの広報局長さんからも諏訪清陵高校のアラスカ大学での研修の様子を広報誌に早速掲載したいとのメールを頂きました。本校の生徒諸君の真摯な授業に対する取り組みがアメリカの先生方の心をとらえたのではないのでしょうか。(講義風景の写真は、アラスカ大学広報局から送られてきたものです。)

今回の研修では、アラスカでの大学での講義と極地観測・実験のみならず、ワシントン州シアトルでの研修も計画して実施しました。

シアトルはシアトルマリナーズの本拠地としても有名ですが、戦前からの長野県出身の日本人移民が多いこと、そして、航空機産業の雄であるボーイング社の拠点としても著名です。

そこで、ボーイングの航空博物館での研修も旅程の最初に組込みました。一人ひとり市内バスに乗込みボーイング社に向かい見学しました。博物館では、20世紀の航空機の歴史のほとんどを実機を前に研修でき、日本では味わえない経験を積むことが出来たようです。



ワシントン州シアトル/

ボーイング社航空博物館にて